

## 計画の実現に向けた効果的な取組方法の助言

## 1. 女性リーダーの「見える化」(可視化)の効果について

(1) 市役所の管理職における女性の比率や地域における区長や PTCA 会長の比率、各審議会における女性の比率などを内容資料にとどめずに、広報などを通して広く市民に積極的に啓発すべきである。「見える化」により女性リーダーの役割の重要性や男女共同参画社会の良さを発信する。

(2) 現在、女性で区長や PTCA 会長をされている方を取材し、広報などでクローズアップしていけば女性が社会で貢献している姿が、ロールモデルとなり、男女の意識(固定)の変容につながると考える。

## 2. 年代別に、重点的な取組を推進していく。

古賀市では、男女共同参画社会の実現に向けて計画的に取組をすすめ、充実していると思う。

今後の方針として、現在進められている取組を精査すべきだと考える。(取組の重点化)

(1) 年代別に縦のラインで重点化する。(〇〇年代は〇〇課の取組で)

(2) 分野別に重点化する。(〇〇分野は〇〇課の取組で)

3. 男女平等意識の向上についての事業開催数や参加者数は「間接的に男女共同参画に関連する」という程度のもを含めることでいくらかでも増やせるので、目標を立てることにあまり意味がないと思う。内容を吟味することが重要だと思われる。

4. コロナの長期化を見据えて、市のウェブサイトにおける啓発の一層の充実やオンラインでの講座の実施などを検討していくことが必要だと思う。

5. やってらっしゃると思うが、今一度、目標のひとつひとつを取り上げ、数だけでなく内容も含めて、出来た or 出来なかった→何故出来なかったのか→どうすれば出来たのか、又良かった事は何が成功に導かれたのかなど、しっかり話し合われて、次の目標を決められ、更に向上していただきたいです。

6. 今年は新型コロナ感染の影響もあり、例年通りの活動が出来ず、通常目標が組みづらいと思う。また、感染者が増えている状況の中で、大変かとは思いますが、出来る範囲でやることを頑張ってください。

7. 自治会への加入促進が併行して粘り強い働きかけが求められる。

(1) 推進媒体となるグループ要員(3~5名)を構成。

ボランティア、有志を募っても現在では困難。それなりの手当で、若年層に広げる。

(2) 市、事務局と地域連携

各地区への出向。意見交換や、生の声を聞く場を持って頂く。

8. 各事業ごとに実施状況や目標の達成状況が、回数や人数などの量的なもので表示されるだけでなく、基本政策の意図する狙いを達成するために、今年は、何を重点的に取組、その結果どうであったか等を質的にも評価し、可視化する必要があると考える。それぞれの事業ごとに目標とその目標の達成状況、対象の選定方法の適切性、効果、方法の適切性等々を評価する目安等を明確に提示する必要はないか。前回の課題を踏まえた企画と、その評価という継続的な事業の発展性に課題があると考え。事業実施の効果と目的の達成状況を客観的に評価するような記載があると進捗状況が可視化できるのではないか。

9. 効果的な取組というか、関連付けて、効果を表現できるような記載方法を検討してはどうでしょう。内容は大幅に変わらないのでしょうか。

(1) 例1：学習会や研修会の実施 地域課題：女性の地域づくりのリーダーの不足→女性による元気な地域づくり応援講座 県内参加者50人 古賀市から○名が参加。参加の募集は、どのような形で行われ、受講者はどのように参加した。また、参加後、古賀市での活動参加にむけての意気込みを……。今後、このような試みの有効性、……。等。

(2) 例2：地域や団体での出前講座の実施  
「デートDV」について、市内の大学1年生の看護大学生に大学生活のオリエンテーションの中で、デートDVについての現状の理解と、男女の付き合いにおいても、I（私）メッセージでコミュニケーションを行う必要性和方法について、演習を交えて学ぶ場を設けた。アンケートでは、デートDVについての理解が深まった（○%）、男女対等な関係性の中で、Iメッセージで、自分の考えを伝えることの必要性（○%）や意義（○%）を学ぶ機会になった。大学生となり環境や人間関係も大きく変わるこの時期に実施することについて、大学から継続の希望も強い。ただ、演習体験が一部の学生に限られること、1回きりの単独の研修の限界もあるため、継続的に実施できるような機会の確保が課題である。

(3) 例3：男女が共に参加するライフプランニングに関する研修会及び相談事業の実施  
→エコけんに市民活動センターの運営を委託した。→市民活動の支援、地域課題の解決、まちづくりにつながる市民活動を推進。→効果、男女の市民活動の参画が拡大（○名→○名）、ライフプランニングの研修（どのような内容が増えた）、地域課題の解決（どのような解決が図られた）、まちづくり（どのような活動が発展した）。→今後の課題等のような記載方法だと効果や課題、進捗状況がわかるのではないか。